

鉄骨・鉄筋コンクリート造家屋建築工事における交通事故（道路）災害の死傷災害発生事例（2017年）

2017年発生月	時間	死傷災害発生事例	年齢	労働者規模
2	20~21	3車線の真中車線を走行中、左車線の車に当てられ右車線に寄る。右車線の車に追突され横転して反対側車線に飛び出す。その時対向車線の車に衝突される。	37	—
2	17~18	作業現場での業務を終えて会社に戻る途中、県道で右折するため対向車待ちで道路上に停止していたところ、後方から加害者が運転する車が被害者の車（軽トラック）へ後ろから追突し、その際頭部、首に強い衝撃を受けた。	59	—
3	8~9	現場にバイクで向かう途中の交通渋滞中に、当方は直進しながら駅北口に向かっていたが、右側道路から直進し、車との間を通り抜けようとする乗用車の左バンパーが当方の右側面に衝突して転倒した。尚、当方からは、通り抜けようとする車が見できなかった。	42	1~9
3	7~8	会社集合場所から作業所へ移動中、本線から下り料金所手前の直線路で車体左側を縁石か壁面に接触させ、その反動で車体が横転し被災した。	19	10~29
4	5~6	現場へ向かうのに走行していたところ、左の建物のところからトレーラーが出てきて、ブレーキが間に合わず衝突してしまった。	46	10~29
4	5~6	現場へ向かうのに走行していたところ、左の建物のところからトレーラーが出てきて、ブレーキが間に合わず衝突してしまった。	30	10~29
		現場へ向かうのに走行していたところ、左の建物のところからトレーラーが出てき		10

4	5～6	て、ブレーキが間に合わず衝突してしまった。	45	～ 29
4	10～ 11	被災者は新築工事現場から工事事務所へ戻るため、工事事務所前の横断歩道を青信号で渡っていたところ、左折してきた乗用車に接触し、ボンネット上に乗り上げて地面に落下した後、左手をタイヤに踏まれた。	53	～ 99
5	15～ 16	通勤路（帰路）の緩やかなカーブにて、10tダンプカーと乗用車が正面衝突した。その際、乗用車の後部座席に乗っており、シートベルトをしていなかった。	31	～ 9
5	15～ 16	事故現場である通勤路（帰路）の緩やかなカーブにて、10tダンプカーと乗用車が正面衝突した。その際、乗用車の後部座席に乗っていた。	22	～ 9
6	7～8	現場へ2tダンプで行く途中、雨が降って地面が濡れていたためか、緩いカーブでブレーキを掛けた時、反対側の歩道の縁石にぶつかり、その勢いでハンドルを切り、逆側の石垣にぶつかり止まった車は破損し、運転手が首から肩にかけ負傷した。	38	～ 9
7	12～ 13	市道が渋滞していたため、小型自動二輪（125cc）にて車列の左側を直進走行中、突然車列の間隙から対向車が右折して来たので、慌ててブレーキを掛けたところ、スリップしてバランスを崩して転倒し被災した。	55	～ 9
9	16～ 17	走行中、前車がブレーキを踏み停止した為、自車も停止した。その後、後方車両が時速50～60kmの速度で追突してきた。	24	～ 49
9	7～8	通勤途中で通勤車に同乗しているときに、高速道路の先の右カーブの接合部分にある鉄製部分でスリップして衝突し、交通事故にあった。	59	～ 29
9	7～8	通勤途中で通勤車に同乗しているときに、高速道路の先の右カーブの接合部分にある鉄製部分でスリップして衝突し、交通事故にあった。	59	～ 29
	17～	現場の作業を終了し、同僚が運転する車に同乗し、工務店へ戻る途中の緩やかな右		1

11	18	カーブを走行中、路面凍結によりスリップしセンターラインを越えて走行してしまい、対向車線を走行して来た車両に衝突した。	23	～ 9
11	17～ 18	作業を終了し、同僚を同乗させ、工務店へ戻る途中の緩やかな右カーブを走行中、路面凍結により、スリップしセンターラインを越えて衝突した。	57	1 ～ 9
11	11～ 12	個人宅新築工事の地鎮祭に向かう最中に、現場付近の十字路にて一時停止をしたが、発進後右から来た車にぶつけられた。（運転席側の後輪付近）その際に全身打撲とむち打ちにて入院となった。	38	30 ～ 49

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to : https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_09.html